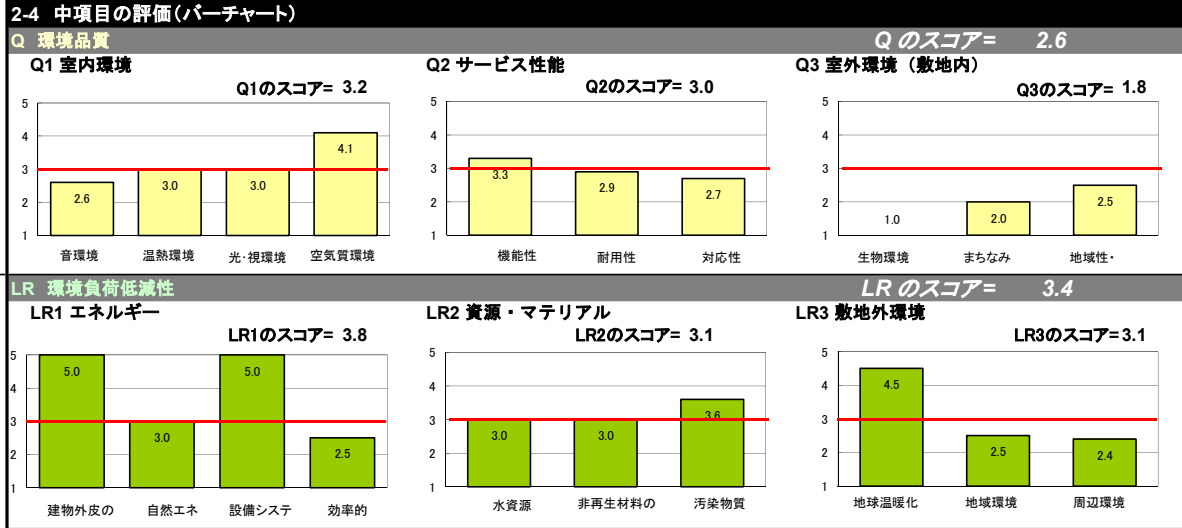
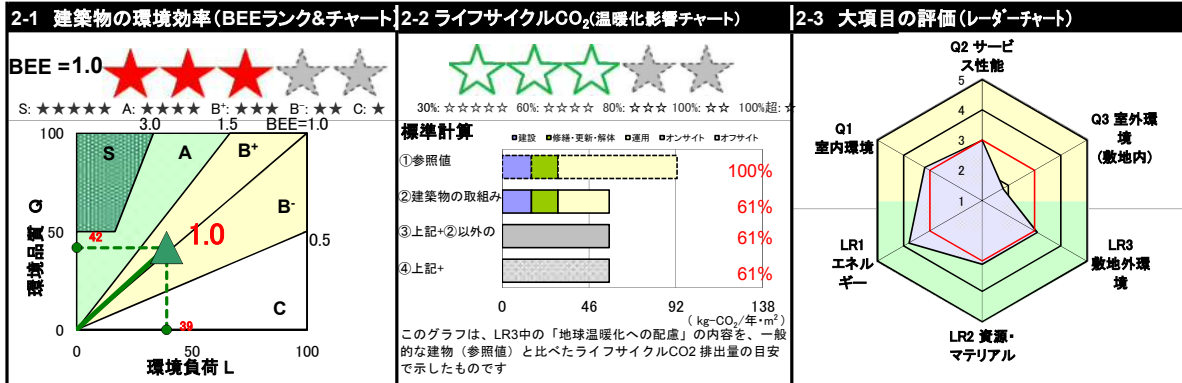


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤマダインフラテクノス 新社	階数	地上2F
建設地	愛知県 東海市 名和町 二番割中	構造	S造
用途地域	工業地域、22条地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年6月2日
敷地面積	4,380 m ²	作成者	矢野 雄嗣
建築面積	1,766 m ²	確認日	2017年6月2日
延床面積	2,221 m ²	確認者	濱屋 智



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">###</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">###</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ヤマダインフラテクノ

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの効率化を図り、エネルギー使用量を削減している。
Q1 室内環境	工場・事務室は可能な限り外部に面した開口を設けることで、自然光利用に努めている。
Q2 サービス性能	快適な執務環境にするため、ゆとりある階高、天井高とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	街並みに配慮した色彩計画としている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの効率化に配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	節水型の機器を用いるなど、水資源の保護に努めている。 また、事務室にはOAフロを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 広告物の照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	

3 対応性・更新性				2.7	0.29		-	2.7
3.1	空間のゆとり			2.2	0.31		-	
1	1 階高のゆとり			3.0	0.60		-	
2	2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40		-	
3.2	荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3	設備の更新性			3.0	0.38		-	
1	1 空調配管の更新性	②		3.0	0.17		-	
2	2 給排水管の更新性			3.0	0.17		-	
3	3 電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	4 通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	5 設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
6	6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.36		-	1.8
1	1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30		-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40		-	2.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50		-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.4
LR1 エネルギー					0.40			3.8
1	1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _{lm} =0.71	5.0	0.11		-	5.0
2	2 自然エネルギー利用			3.0	0.25		-	3.0
3	3 設備システムの高効率化		高効率の空調機器を採用	5.0	0.38		-	5.0
4	4 効率的運用			2.5	0.26		-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	
4.1	4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2	4.2 運用管理体制			2.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-		-	
4.1	4.1 モニタリング			-	-		-	
4.2	4.2 運用管理体制			-	-		-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			3.1
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1	1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67		-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63		-	3.0
2.1	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07		-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25		-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21		-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	1.0	0.21		-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材が容易に分別可能となっているなど	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22		-	3.6
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用		全ての建材にF☆☆☆☆を採用	5.0	0.32		-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	1 消火剤			-	-		-	
2	2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3	3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値 61%	4.5	0.33		-	4.5
2 地域環境への配慮				2.5	0.33		-	2.5
2.1	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1	1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	
2	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	3 交通負荷抑制	独自	駐車場の確保	4.0	0.25		-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33		-	2.4
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	1 騒音	独自		3.0	0.33		-	
2	2 振動	独自		3.0	0.33		-	
3	3 悪臭			3.0	0.33		-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		-	
1	1 風害の抑制			1.0	0.70		-	
2	2 砂塵の抑制			-	-		-	
3	3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3	3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)ヤマダインプラテクス 新社屋・工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1